

2 学 期	2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 第3章 2次関数 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式 教材等 教科書、問題集 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考・判断力・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	21
	定期考査						1
	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用 教材等 教科書、問題集 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 <p>【思考・判断力・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	21
定期考査						1	
3 学 期	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を培う。	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 第5章 データの分析 教材等 教科書、問題集 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 <p>【思考・判断力・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	16
	定期考査						1
合計							105